

やまだんの 山田野

1

独立行政法人

国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

ごあいさつ

病院長の古田壽一と申します。広報誌発行にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

広報誌タイトルを「山田野」(やまだんの)といたしました。これは北陸病院が位置する地区の古くからの名称です。下記の航空写真をご覧になればおわかりのとおり、病院周辺は山(写真には写っていませんが、遥か両サイドに八乙女山と医王山という山があります)、田園と野原に囲まれ、大変自然豊かな環境です。

北陸病院は、昭和19年10月に傷病軍人療養所北陸荘として開設され、戦後、昭和20年12

月に厚生省に移管され、国立療養所北陸荘(結核療養所)として発足しました。ネットで検索したところ、この当時、同じ「山田野」という名前で機関紙の発行(国立療養所北陸荘文化協議会)があったようです。昭和43年に結核患者の減少にともない精神療養所に転換し、昭和52年4月に国立療養所北陸病院と改称され、平成16年4月からは独立行政法人国立病院機構北陸病院となりました。いまでも地元の住民の方には「北陸荘」という名称の方が馴染みがあるようです。

(次頁につづく)





当院は、政策医療の対象である精神疾患、神経難病及び重症心身障害の患者さんを受け入れ、これらの専門医療機関として施設を運営することを基本方針としています。

現在、精神病床として174床（精神保健福祉法140床、医療観察法34床）、一般病床として80床（神経難病40床、重心40床）の合計254床を運営しています。

精神科にあっては、国レベルの医療として、医療観察法による指定入院医療機関として県境を越える広域からの対象者を受け入れ、多職種（医師、看護師、臨床心理技術者、作業療法士、精神保健福祉士）による医学・心理社会的な包括的チーム医療による入院治療を行っています（6病棟）。

県レベルでは、富山県における精神科救急医療の基幹病院としての役割を担い、また、措置入院や難治例など他の経営主体では対応や治療的アプローチが困難な患者の診療に努めています（3病棟）。さらに、結核等の身体合併症を有する精神疾患患者の治療も積極的に行っています（わかくさ病棟）。

南砺市の地域レベルでは、認知症ネットワークに参画し、老人性認知症センター（砺波圏）の指定を受けています（5病棟）。

外来医療では、地域で唯一の精神科病院であることから、近隣の医療機関との地域医療連携を



緊密にして、専門外来（睡眠障害、もの忘れ、ストレスケア、アルコール依存）を通して、リエゾン・コンサルテーション精神医療の充実を図っており、特に専門性が高い睡眠障害についてはセカンドオピニオン外来も開設しています。

神経難病については、砺波圏において頻度が高い遺伝性脊髄小脳変性症を中心に入院医療を行い（1病棟）、重心については、県下の情動・行動障害を伴う重心（いわゆる動く重心）の診療を専門的に行っております（ひまわり病棟）。

独立行政法人化3年を経過し、今後、政策医療に基づく質の高い医療の提供と効率的な施設管理・運営および病院経営の健全化の両立がより求められることになると思いますが、全職員が意欲と責任を持って職務に精励していきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 古田 壽一



認知症

第1回

— 認知症とは —

副院長 坂本 宏

現在我が国は超高齢化社会にあり、なかでも富山県は65歳以上の人口比が23%以上となっていて一昨年にはすでに超高齢社会（65歳以上が21%以上を占める社会）の真っ只中にあります。そのため加齢に伴って増える認知症（85歳以上では30%を超えるとされる）への対策が重大かつ身近な課題となり関心をもつ方も増えてきています。しかし、

年だから仕方ない
ちょっとボケただけ
な—んたいしたことない
どうせ治らんのかな



と見過ごされたり、そのままにされていることが多く、認知症に対する正しい認識はまだ十分には浸透していないと思われます。そこで、この度当院の広報誌を発行するにあたり、認知症について基本的な理解を得ていただけるように何回かに分けてお話していきます。

定義

認知症とは「一度正常に発達した知的機能が後天的な脳の器質的障害によって持続的に低下し、日常生活・社会生活に支障をきたした状態である」とされており、れっきとした病気であります。認知症は「もの忘れ」のほかにはいくつかの症状が集まってできた症候群であり、その中に多くの疾患が含まれており、その種類によっては治るものや早期発見早期治療により進行を遅らせることができる場合もあります。

症状

日常生活の上であらわれた認知症の症状のなかで、家族の方が「おかしいな」と初めて気がついた変化を比較的多い順に並べてみました。このような症状に一つでも気づいたら他にもないか注意深く観察してみてください。もう認知症が始まっている可能性があります。是非かかりつけ医などに相談されてはいかがでしょうか。



家族が気づいた 認知症の初発症状

1. 同じことを言ったり聞いたりする
2. 物の名前が出てこなくなった
3. 置忘れやしまい忘れが目立った
4. 以前はあった関心や興味が失われた
5. 日課をしなくなった
6. だらしなくなった
7. 時間や場所の感覚が不確かになった
8. 計算の間違いが多くなった
9. 財布を盗まれたと言う
10. 些細なことで怒りっぽくなった
11. 蛇口やガス栓の締め忘れが目立った
12. 慣れているところで道に迷った
13. 複雑なTVドラマが理解できない。



当院で行っている、 認知症のトータルケア

老人性認知症センター

砺波医療圏の老人性認知症センターの指定を受けています。
センターでは、

1. 専門医療相談
2. 鑑別診断・治療方針の選定
3. 救急時の対応
4. 外部保健医療・福祉関係者への技術援助
5. センター機能の充実

などを行なっています。



- 専門医療相談については、地域医療連携室の精神保健福祉士が対応しております。
- 鑑別診断・治療方針の選定については、外来受診をしていただく事になります。

老人性認知症疾患治療病棟

徘徊・昼夜逆転・幻覚・妄想・興奮等の症状を有する重症の認知症の方を、短期集中的に治療する病棟です。専門スタッフによるカンファレンスに基づいた生活機能回復訓練や薬物療法、精神療法を通して、生活のリズムを整え、日常生活動作の衰えを防止し、症状の進行予防・緩和を図っていきます。

入院の適否は、専門医によって判断されます。

デイケア

軽度の認知症の方を対象にしている「デイケア」です。医師・心理療法士・看護師等の医療チームでプログラムを行っています。回想法等の心理療法や、書道・園芸・音楽・レクリエーションなどを行い心の安定を図り、日常生活動作の維持・回復を目指しています。

- 開催日：月曜日～金曜日（祭日を除く）
- 時間：8時30分～16時00分
- 内容：各種プログラムと昼食
- 費用：費用は自立支援医療の対象となっています。
自立支援医療の手続については病院受付又は
地域医療連携室にご相談ください。

専門医の判断により、通所が決定します。尚、送迎はご家族の方をお願いしています。

受診の調整は地域医療連携室で行いますので、お気軽にご相談ください。

職

場紹

介

のページ

【1 病棟】

昭和55年に神経難病病棟として開棟しました。定床数40床の神経内科病棟です。病棟は、中央にスタッフルームを挟み東西に広がり病棟の南側には中庭があり、四季の花が楽しめる療養環境となっています。

入院患者の疾患別では、パーキンソン病・脊髄小脳変性症・ハンチントン病・多系統萎縮症など神経・筋疾患患者様が入院患者の90%以上を占めています。疾患の進行に伴い医療処置の頻度が多く看護度も高くなり、8割以上の患者様が日常生活において全面介助を必要としています。私たちは、患者様に次のような看護ケアを実施しています。

1. 固定チームナーシングを行い、看護の継続と質の向上に努めています。職員構成は、師長を含む看護師17名と業務技術員4名です。



症例検討会

2. 医療チームによる症例検討会を開催し、疾患の理解と患者様・御家族の思いを取り入れたQOL(生活の質)向上について検討し、治療やケアにつなげています。
3. 病棟の日課にラジオ体操や発声訓練・集団療法を取り入れ、入院患者様の残存機能が少しでも維持できるように努めています。



発声訓練



集団療法

4. 日常生活能力の向上のため、ベッド離床を促し生活空間の拡大につなげています。
5. 研修に参加し、エビデンスに基づいた肺ケアやスキンケアに取り組んでいます。昨年から褥瘡発生率0%です
6. 病院の合同行事・病棟行事を年間計画に組み入れ、精神面の活性化やQOL(生活の質)の向上・家族との交流の場につなげています。



合同行事運動会

外来担当医表

項 目	月	火	水	木	金
精神科・神経科（初診）	市川・岡本	坂本・市川	白石・林	石崎・村田	林・白石
精神科・神経科（再診）	石崎・三浦	白石・竹内	細川・岡本	市川・細川	村田・三浦
内 科	渡辺	渡辺	渡辺	荒幡	渡辺
専 門 外 来	睡眠（初診）		古田	古田	古田
	睡眠（再診）		竹内	古田	細川
	神経難病	●受付・診療時間・・・8:30～11:30 専門外来は予約制となっています。 睡眠外来ではセカンドオピニオンも実施しています。 地域医療連携室にご相談ください。 【地域医療連携室 直通電話】0763-62-1950			
	重症心身障害				
	アルコール				
	もの忘れ				
	ストレスケア				

地域医療連携室

当院の地域医療連携室では、以下の様な事について、
精神保健福祉士が対応しています。

- ① 地域の医療機関や施設等からの当院への受診がスムーズに行われるように調整する。
- ② 入退院に関する相談・医療費などに関する相談・認知症・アルコール依存症・外来リハビリテーションなど、各種相談窓口。
専門外来の受診調整も行っておりますので、お気軽にご相談ください。



【交通アクセス】

◆交通機関

JR 城端線、城端駅より、タクシーで約5分。

◆高速道路

東海北陸自動車道、福光ICより約5分。

◆南砺市コミュニティーバス

JR 城端駅・福光駅より出ています。



独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hokuriku/>

【編集・発行】北陸病院

【広報担当】石崎・吉岡・前田